

まとめ

- 一点豪華主義の政策ではなく、政策目標に対応した政策手段が重要になる。
- 児童数が減少するなか、すべての子どもを大切に育てる。
- 貧困の世代間連鎖を食い止める。
- 特に、社会的養護の子ども達への施策の充実（虐待経験の影響）
- 貧困の世代間連鎖は、経済的要因（進学費用、食料、健康アクセス）のみならず、成育環境（親の接し方、居住・交友）、心理要因（ストレス、脳神経）も重要。
- 現金給付だけでは効果は間接的・限定的（家庭の「条件整備」には効果）
- 子どもに直接届く支援にするためには、「条件付き現金給付」、「バウチャー」、「現物サービス給付（成育環境の整備）」がより直接的
- 自己制御・実行機能、寛容・利他性・信頼性をはぐくむための成育環境の整備に重点を置く。「成長の心の枠組み」（3000万語プログラム）
- 精神的課題のある親子の支援の拡充
- 関連分野（脳・神経科学系）の研究を生かした科学的な根拠のある具体的なプログラムの開発・専門職の確保と育成（長期追跡データの必要性）

参考文献（出典以外）

- 人口関係：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」各年より作成
- 駒村康平（2014）『日本の年金』岩波書店
- 駒村康平（2015）『中間層消滅』角川新書
- 駒村康平・丸山桂「世代間の貧困連鎖」駒村康平編（2018）『プラスα 貧困』ミネルヴァ書房
- 駒村康平（2018）「長寿社会における基盤整備としての人的資本政策」三浦まり編『社会への投資』岩波書店

参考資料

- 貧困が社会に何をもたらすか？
- アダム・スミス「国富論」

貧困にあえぎながらの単調な労働は人々から困難を克服するための創意や精神活発さを失わせる。

理性的な会話で楽しむことも参加することもできなくなる。

寛大な心も優しい感情も、市民としての義務などについても正しい判断ができなくなり、自分の社会や国に関する重要かつ広汎な利害関係への関心も判断を失わせる。

子どもの貧困が及ぼす影響

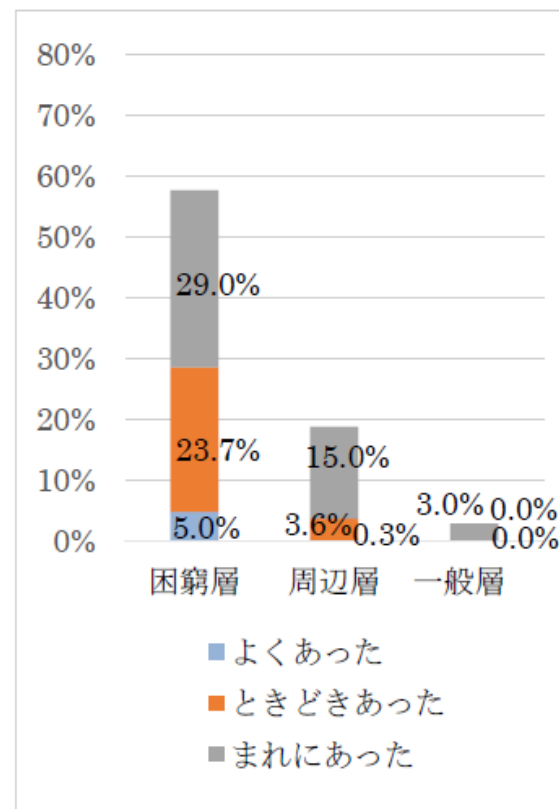
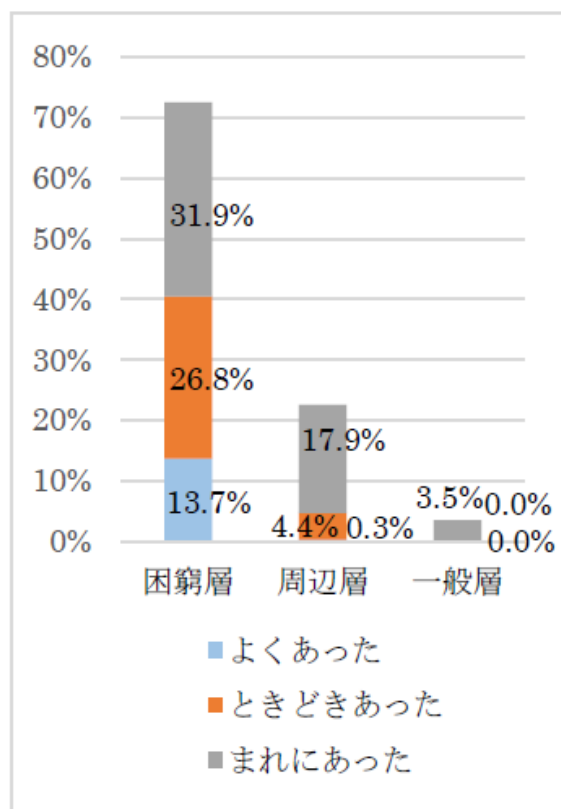
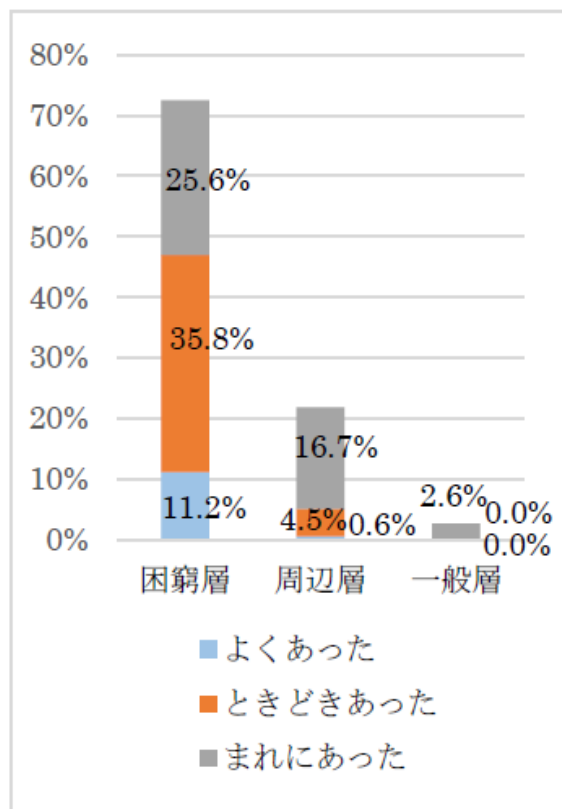
東京都（2017）子供の生活実態調査【小中高校生等調査】

図表 1-1-4 食料の困窮の経験：生活困難度別

小学5年生 (***)

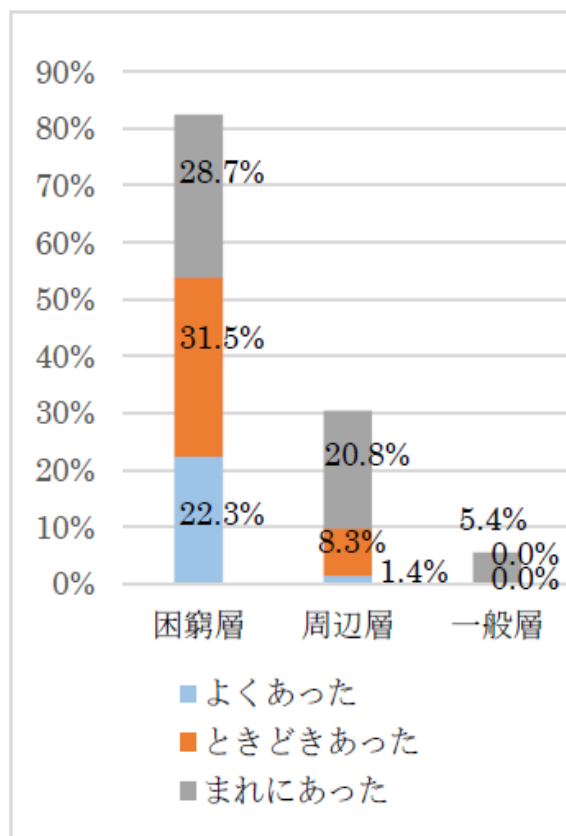
中学2年生 (***)

16-17歳 (***)

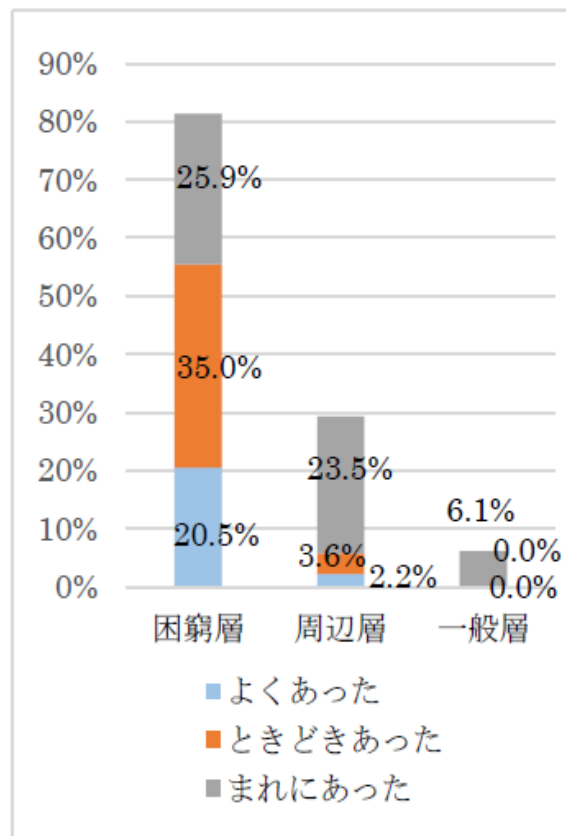


図表 1-1-5 衣類の困窮の経験：生活困難度別

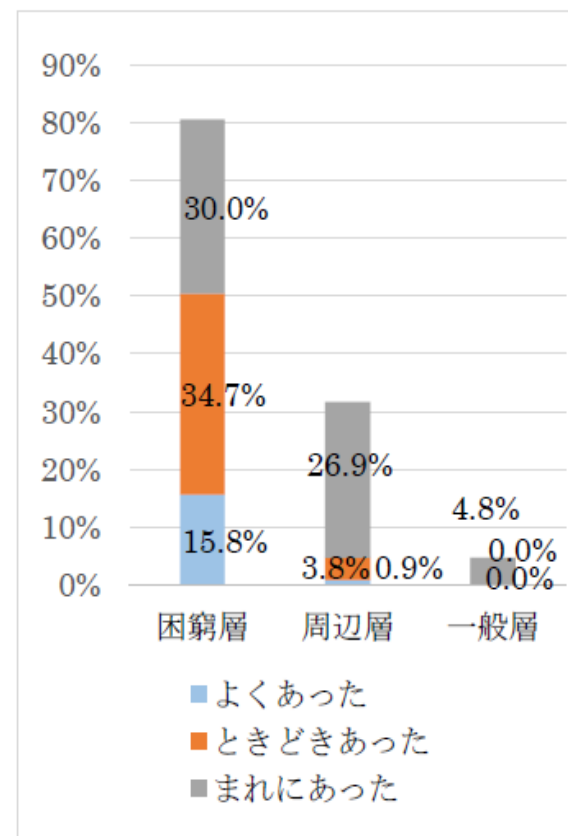
小学 5 年生 (***)



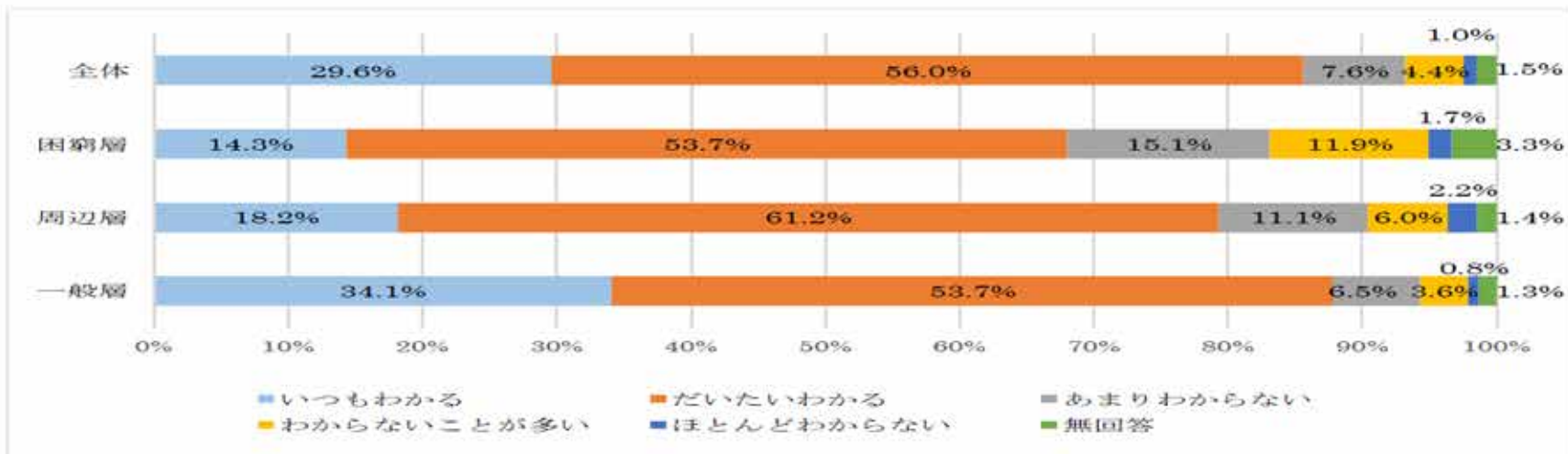
中学 2 年生 (***)



16-17 歳 (***)



図表 2-2-1 授業の理解度(小学 5 年生):全体+生活困難度別(***)



図表 2-2-2 授業の理解度(中学 2 年生):全体+生活困難度別(***)

